

『一本足りない男』の物語

9期 鍋島 武

◆ 陸上競技 3000mで惨敗

一学年 60 名程度の能登の片田舎の中学校。私の 2 年先輩に、足の速い男がいた。県中学陸上競技大会 3000m で第 2 位に入賞。我らのヒーローだ。

小生が 2 年生の時に、この偉大な先輩のタイムを超えた。部落の期待は一気に『次は武の番だ』と盛り上がった。小生もその気になった。

幸いにも羽咋市 郡大会の 3000m をクリアして、小松の末広競技場の県大会に出場。だが結果は散々なもの。順位さえ数えられない。

これではいけないと、翌年（中 3）に向けて、特訓開始。今度こそは期待にこたえたい。汚名返上の意気込みも強い。

中学 3 年の時の羽咋郡・市の大会は問題なく優勝。金沢市営グラウンドの県大会に挑む。

結果は昨年同様に悲惨なもの。期待を裏切ることになり、地元に戻るのも嫌だ。

あんなに頑張っ
て猛練習をしたのに、何が足りない
のだろうか。



（自宅前の道も練習の場だ）

◆ 卓球大会で完敗

能登は雪国。冬は室内競技の卓球が盛んだ。中学 3 年の時、我が堀松中学は羽咋郡代表で県中学卓球大会に挑む。



団体 1 回戦。2 勝 2 敗で、決着は大将格の勝負に。小生の出番だ。『武なら勝てる。平素通りにやるだけだ』と、先生に励まされて、試合開始。

結果は完敗。何故か、脚も手もいつものように動かない。何がダメなのだ。何が足りないのか。教えてくれ！

◆ 大学入試に失敗

38 豪雪の年。金沢大学の入試に失敗。4 月から

金沢の予備校に通った。この予備校からは毎年 50 名前後は金沢大学へ入ったと思う。

予備校の 4 月のテストで、5 番か 6 番だったと思う。一か月前の本番でこの実力を発揮すれば、浪人しなくてもよかったのに。

今簡単にできることが、なぜ一か月前にできないのか。本番に弱いね。一本足りないね。

◆ ゴルフでいつもチョコ献上

前日までの練習やスタート直前の調整では、調子は上々だ。今日のゴルフは期待できるぞ

それが、最初のティショットで大スライスの OB。『ああ、今日もだめだ』で、18 ホール終了。

やはり本番に弱い。何か一本足りない。



（小生がいつもチョコを献上する KUWV 千葉 9 期生）

◆ 脳ドックで すべての原因が判明

本年 9 月 3 日、勝田台病院で脳ドック受診。

私の脳の MRI 画像を見ながら院長先生と面談。

先生：『これは珍しい画像だ』『血管が一本足りない』 比較的太い血管を指しながら、『この血管がもう一本あるのが通常の人間の脳』

小生：『いつ、どうして無くなったのですか』

先生：『生まれた時からだね』

小生：『どうしたらいいのですか』

先生：『どうしようもない。普通に生活しているのだから、このままでいくしかないね』

脳ドックの結果報告の書類上の所見は、『異常なし』とは書かれているが、小生は子供の頃からの悔しい現象の原因はこれなのだ…と納得。

◆・その後、ちょっとしたヘマをする度に、女房から『一本足りないのだからしょうがないわね』と言われている始末。

・お袋の 7 回忌に、『お母ちゃんのお腹にいる時、一本つけ忘れてるよ。でも頑張っているよ。ご安心を』と報告するつもりだ。

・千葉 9 期様 次回からハンディいただきます。

以上